



【先週 12月22日～12月28日の外食の出来事】

■外食向け最大手酒類卸カクヤス、東証2部上場 ITに投資する

業務用最大手の酒類卸、株式会社カクヤスが23日に東証2部に上場し、初値は1866円で公開価格1600円を上回った。初値での時価総額は、140億42百万円。3月期決算予想では、売上高1,104億60百万円、1.6%増。

■海外の日本食レストラン、15万店超え アジアは5割増

農林水産省が、海外における日本食レストラン数を前回調査から2年間で3割増の約15万6千店となったと発表。最も多い地域はアジアで、約101,000店(約69,300店から5割増)。次いで、北米で約29,400店(約25,300店)。

■なだ万、2020年に創業190周年

株式会社なだ万が、2020年に創業190周年を迎える。老舗と言われる和食店も多くは昭和に入ってから開業したところがほとんどの中で、例外的とも言える長い歴史を持つ。

■ハイデ日高、15%減益 3～11月単独営業 人件費など増加

ラーメン店「日高屋」を展開するハイデ日高の2019年3～11月期の単独営業利益は前年同期比15%減の31億円程度だった。3～11月期としては2年連続の減益となる。20年2月期の通期業績は下方修正する公算が大きい。

■ロイヤルHD、「GATHERING TABLE PANTRY 二子玉川」オープン

「GATHERING TABLE PANTRY」では、テクノロジーを活用して人による調理・接客サービスを向上させ、顧客に価値を感じてもらえる快適な食体験を提供し、忙しい毎日をおくる多くの人に寄り添う次世代の街の店を目指す。

■大庄、アッパー版寿司居酒屋「お魚総本家」オープン 職人技で差別化

「庄や」「日本海庄や」をなど全国で約600店舗を運営する株式会社大庄が、新業態、本格板前居酒屋「お魚総本家」の1号店を12月27日(金)に東京・池袋西口にてオープン。ブランドスローガンは『腕に、魚に、こだわり抜く』。

■いきなり！ステーキが大量閉店へ 年末年始に26店舗

急すぎた店舗拡大によりカニバリゼーション(自社競合)が起き、約500店あるいきなり！ステーキのうち44店を閉店する。19年度に新規で210店を展開する予定だったが、115店への縮小も余儀なくされた。

■王将フードサービス／「出前館」デリバリー対応 51店に拡大

王将フードサービスは12月24日、「出前館」の対応できる「餃子の王将」が51店舗へ拡大したと発表した。12月23日より、新たに「餃子の王将」17店舗に「出前館」のシェアリングデリバリーを拡大導入した。

■壱番屋、純利益16%増 今期上振れ 国内店が好調

壱番屋は25日、2020年2月期の連結純利益が前期比16%増の32億円になりそうだと発表した。従来予想は30億円。カレーなどの値上げをテコに国内店が好調に推移している。人件費などのコスト面も想定を下回る。